

## 包 括 的 公 表

2023年1月～3月に報告された医療事故のうち、包括的公表となる事例は下記のとおりです。

No.	発生場所	概 略	再発防止策
1	病棟	<p>上肢麻痺の患者に対して気管切開チューブからハンドネブライザーで吸入する際、看護師が手で保持せず、テープ固定で実施。ネブライザーがずれて気管切開口へはまり、呼気ができなくなり、徐脈、意識レベル低下。ICUへ入室した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハンドネブライザーを自分で保持できない患者は、介助者が手に持って実施するように院内へ再周知する。</li> <li>・ハンドネブライザーを保持できない患者の場合、実施時間、吸入方法の変更などを検討する。</li> <li>・気管切開チューブの気管口にはまらない形状のネブライザーの導入を検討する。</li> </ul>
2	病棟	<p>入院当日、初回の食事中に義歯なしで普通食を摂取。食物が多量に口腔内に貯留したことにより呼吸停止。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事摂取前の口腔内の観察、食事摂取時の咀嚼・嚥下のアセスメントなど必要な観察項目や手順を再確認する。</li> <li>・情報が不足している場合の食事の指示は、食事摂取が可能であるか、適切な食事形態を医師、看護師が共に判断する。</li> </ul>

No.	発生場所	概 略	再発防止策
3	病棟	手術目的で入院をしたことを、母親へは知らせてくないと申請され、連絡先を同胞にするよう希望された患者。 カルテの連絡先欄へ同胞の連絡先を転記したが、緊急連絡先欄は、以前入院したときの母親の連絡先が残っていた。手術終了後に医師が、母親へ手術の件を電話連絡したため、情報が伝わってしまった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入院時に患者が記入する連絡先（入院時意向確認書）の様式と、カルテの連絡先に関する見出しの様式を同じにして、転記間違いが発生しにくいようにする。</li> <li>・意向確認書からカルテへ連絡先を転記した後は、他の職員が照合し、ダブルチェックする。</li> <li>・カルテの連絡先を記入後、患者へ連絡先欄の記載内容の確認を依頼する。</li> </ul>
4	外来	外傷で受診し、胸椎圧迫骨折の保存的治療のため、転院。転院先で肩甲骨窩骨折を発見され、当院での骨折見落としが発覚。再搬送され、肩関節の手術を行った。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外傷部位と関係のある部位の画像は、1 か所ずつ確実に確認し、見落としを防ぐように診療科内で再周知する。</li> <li>・複数の医師による画像などのチェック機能を構築する。</li> </ul>